

民主島根

2021年
8.1
第1389号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

飯南町 “共産党が一番早く駆けつけてくれた” 被災者支援制度の適用を

大平前議員、むこせ島根2区から先頭に被害を調査

日本共産党の大平よし
のぶ前衆院議員・衆院中
国ブロック比例予定候補
は、7月12日の大雨の
影響で一時「緊急安全確
保」が発令された飯南町
と雲南市の被災者を見舞
うとともに被害状況を調
査しました。

7月13日には飯南町
を訪れ、むこせ慎一衆院
2区予定候補、大國陽介
県議、伊藤好晴町議と
もに、谷川の洪水で田畑
と住家に土砂が流入した
農家や裏山が崩壊し、住
家に土砂が押し寄せて被
災した人などから要望を
聞き取りました。

大平氏は「住居や農地
への土砂流入被害が深刻
で自力、人力では撤去は
不可能。環境省の『災害
廃棄物等処理事業』や国
交省の『堆積土砂排除事



調査する大平、むこせ、大國、伊藤の各氏(7月13日、飯南町)



自治会長から要望を聞くむこせ、尾村、
上代の各氏(7月16日、雲南市)



説明を受ける大平、むこせ、上代の
各氏(7月26日、雲南市・飯石地区)



6月23日の原子力規
制委員会の定例会合で、
中国電力が秘密保持契約
により原子力規制庁から
貸与されていた原発のテ
ロ対策施設に関する非公

業」災害救助法の「障害
物の除去」などの支援制
度が使えよう求めている
きたい」と語りました。
26日の雲南市の調査
被災地を見て回りました。

では、雲見の里いし(地
域自主組織)の妹尾富徳
会長が案内。むこせ氏、
上代和美市議とともに被
災地を見て回りました。

島根原発2号機 審査中断を

島根・鳥取の党県議ら申し入れ

開文書を無断で廃棄して
いたことが判明した問題
で、日本共産党の島根・
鳥取両県の県議らが7月
14日、松江市の島根原
子力規制事務所を訪れ、
島根原発2号機の適合性
審査を中断するよう申し
入れました。申し入れた
のは、市谷知子鳥取県議、
島根県議団、松江市議団、
大平よしのお衆院中国比
例予定候補(代理)と島
根県の出雲、安来、雲南、
鳥取県の米子、境港の各
自治体の党議員15氏。
(写真)

市谷、尾村の両氏らは、
中国電力が2015年4
月に廃棄していたにもか
かわらず、規制庁に6年

「大雨被害の復旧早く」

尾村県議、松江市議団ら宣伝

大平よしのぶ前衆院議
員の比例議席奪還へ、松



原発のない松江

■美郷町議選
7月18日投票開票
の美郷町議選(定数
12、13人立候補)
では日本共産党の中
原保彦氏(現)(7
9)が2期目の当選



飯南町議
伊藤好晴氏

美郷町議
中原保彦氏

美郷・飯南町議選 現有議席確保

を勝ち取りました。
得票率は7・39%
(前回5・36%)
でした。開票結果は
次の通り。
中原 保彦(現)
222票・7位
■飯南町議選
7月20日告示さ
れた飯南町議選(定
数10)では、定数
と同数の立候補で無
投票となり、日本共
産党の伊藤好晴氏
(69)が現(7
9)が5
期目の当選を果たし
ました。

江市では7月16日、日
本共産党の尾村利成県
議、岩田剛東部地区委員
長、田中肇、舟木健治、
橘ふみ各市議が商店街前
で宣伝し、大雨被害で被
災された人たちにお見舞
い伝えるとともに「一刻
も早い復旧に向けて力を
尽くします」と訴えまし
た。(写真)

尾村氏は、松江市の土
砂災害対策箇所の整備
率はずか2割の状況だ
と指摘し、「住民合意のな
い大型事業の松江北道路
建設(250億円)は中
止し、防災・減災型公共
事業こそ最優先すべき」
と強調。
豪雨災害と原発事故が
重なった複合災害時に
は、住民の命と安全が危
機的な状況になると述
べ、「避難計画通りに避難
ができる保証はない。島
根原発は絶対に稼働させ
てはならない」と力を込
めました。

鼓動

コロナ禍での二度目の夏
休み。制限の多い状況下で
あっても、子どもには子ど
も時代にしか味わえない
時間を過ごしてほしいと願うば
かりだが、現実はどうだろうか。
「幼き介護者」や「ヤングケアラ
ー」と呼ばれる子どもたちの存
在が頭をよぎる。コロナ禍で初
めて行われた国の実態調査で明
らかになったその数、中学生で
は約17人に一人。しかもこれ
は氷山の一角と思われる。大人
でさえ、孤独感や閉塞感に押し
つぶされ助けを求めたくなる介
護・育児・家事等のケア労働全
般を担うことが常態となってい
る彼らは、子ども時代に享受す
べきはずの貴重な時間と引き換
えに日々を送る。心の内を話す
場や機会も、また自らがその境
涯を語ることも少ないため周囲
が気づかず援助が届かない状
況も多い。そんな子ども時代に過
ごし、社会に出ようとした時に
は既に求人年齢を超え、新たな
壁が立ち塞がる。「かつてヤング
ケアラーだった人たち」の存在
も見逃ごせない。彼らだけでは
ない。「自己責任論」の呪縛の中、
必死で生きる私たちの悩みや苦
しみ「社会化」され、あらゆる
想いを分かち合える場や法的
整備、実情に即した支援策が増
えればどんなに生きやすい社会
になるだろう。今の社会に必要
なのは、本気の共助・公助であ
る。政治の使命はそこにあり、
リードする集団が政権だ。しか
し現政権にその任は負えない。
国民を欺き侮り、人の命より五
輪優先・民意無視の姿勢がそれ
を証している。一刻も早く温か
い社会に変え、子どもたちに手
渡す。そのための鍵は有権者の
掌中にある。来るべき総選挙で
は確かな審判を下したい。(江)